



2023 年度 慶應義塾大学 (医)

【 講 評 】

読解問題 2 題と自由英作文 1 題という形式は、昨年度(2022 年度)と同じである。(2019 年～2021 年度は、読解問題 3 題と自由英作文 1 題であった。) 読解問題は、大問 1 が 700 語程度、大問 2 が 850 語程度の英文を読み、問に答える形式。英文の総語数は、難関私立大医学部としては多くなく、読解はしやすいが、記述問題が多いため、制限時間内に解答を作るのに苦労する問題である。自由英作文も「日本人の若者が海外留学に興味を持たない理由」といった馴染みのあるテーマであり、書きやすいテーマであるので、この問題に十分に時間がとれたかどうか、得点を左右したはずである。他の私立医学部よりも記述問題が多いため、慶大医学部の英語の問題で高得点を目指す諸君は、記述対策に十分な時間をかけることが重要である。

【 解 答 ・ 解 説 】

[I]

[解答]

問 1 **However, when an ecosystem is being destroyed, there is not much life making sounds in it.**

(別解) **But when an ecosystem is dying, not much life is there to make sounds.**

問 2 人間の干渉、嵐、あるいは、熱波によって生態系が損なわれた時には、その生態系が蘇ることはより困難なのである。

問 3 過去数十年間に、海のサウンドスケープの多様性を研究している数多くの研究チームが、健全な海の生息地の音が、損なわれた海の生態系を蘇られる重要な手段となりうることに気づいてきた。

問 4 (ア) inclined (イ) studying (ウ) led (エ) made (オ) be used (カ) recorded

問 5 **That silence matched the reefs that had become barren like a ghost town.**

(別解) **That quiet matched the desolate ghost town the reefs had become.**

問 6 予想通り、以前のサウンドスケープの録音を流したスピーカーの近くには、そのような音を流さなかったサンゴ礁の場所の 2 倍の数の魚が棲みついた。

問 7 2 番目 (サ) 6 番目 (エ) 13 番目 (オ)

問 8 **How healthy a marine ecosystem is can be evaluated by how diverse its soundscape is, or how complex and productive it is.**

(別解) **A marine ecosystem's health can be assessed by its soundscape diversity or how complex and productive it is.**

問 9 以前悪化していた環境の水中の音が、次第に賑やかになる時には、生態系が回復しつつあることを明らかに示しているのである。

問 10 ① 特定の生態系を回復させるのに役立つ音の組み合わせを知るというプロセス。

② 特定の種の生物を引きつけることができる音でも、他の種を引きつけることができないことはあるし、天敵関係にある種の生物を同時に引きつけてしまう可能性もあるから。

問 11 (は)、(に)、(へ)

[解説]

問 1 「しかし、生態系が崩れつつあるときには、音を立てる生命がそこにはあまりいない。」を英訳する問題。

「崩れつつある」→進行形を用いて is being destroyed/ is dying/ is collapsing などとするとよい。

「音を立てる生命がそこにはあまりいない」→there is not much life making sounds in it (あまり多くの生命はそこでは音を立てていない)、not much life is there to make sounds (あまり多くの生命が、そこにいて音をたてることはない) などとするとよい。

問 2 When an ecosystem is degraded by human interference, storms, or heat waves, it has a harder time coming back to life.を和訳する問題。

degrade は、「～の質を低下させる、～を悪化させる」。

have a hard time Ving～は、「～するのに苦労する」。

come back to life は、「生き返る、意識を取り戻す、活気を取り戻す」という意味があるが、この場合は、「生物がこの場所に戻ってきて、元の活気を取り戻す」という意味であることは後の内容から推測できよう。

問 3 Numerous research teams studying soundscape diversity in the ocean over the past few decades have found this to be the case.を the case が指すものを明らかにして和訳するという問題。(実際には、補語として使われる the case は「実情≒true」の意味であり、指示語ではない。本来なら「this の内容を明らかにして和訳」という設問にすべきである。)

have found this to be the case は「このことが、実情であると気づいた。」という意味。

this は、直前部分の that 節の内容(=「健全な海の生息地の音が、損なわれた海の生態系を蘇らせる重要な手段となるかもしれない」)を指す。

問 4 与えられた動詞を正しい形に変える問題。

(ア) inclined : be inclined toV～「～しがちである」。

(イ) studying : studying ocean soundscapes が、前の A group of marine biologists を修飾する現在分詞句。

(ウ) led : a long heat wave を主語にする動詞の位置にあり、前に in 2016 という過去の時を表す副詞句があるので、過去形にする。

(エ) made : made when it was full of life が、old sound recordings of the marine habitat を修飾する過去分詞句である。

(オ) be used : この答えを書かせるのに、「単語をふさわしい形に変えて」という設問でよいかどうかは疑問だが、could の後の受身形であることは明らかである。

(カ) recorded : recorded in a particular soundscape が前の snaps per minute を修飾する過去分詞句。

問 5 「その静けさは、荒涼としたゴーストタウンになってしまったサンゴ礁に合っていた。」を英訳する問題。

「静けさ」→silence/ quiet(ness)

「荒涼とした」→desolate/ barren (barren は、次の文でも使われている)

「～に合っていた」→「～に合っている」は match～がよい。

「～になってしまった」→「合っていた」よりも前のことなので過去完了形を用いる。

問6 Sure enough, twice as many fish took up residence near speakers playing the old soundscape recordings than in the areas of the reef that had no acoustic enhancement. を和訳する問題。

sure enough は「案の定、思った通り」。

twice as～than…は、正しくは twice as～as… 「…の2倍～」であるが、このような間違いは多くあるので、臨機応変に対応することが大事なのかも。

had no acoustic enhancement の部分は、acoustic (「音の」) や enhancement (「向上、増強」) が分からず、解答が作れなかった受験生もいるだろうが、near speakers playing the old soundscape recordings と in the areas of the reef that had no acoustic enhancement とが対比なので、「以前のサウンドスケープの録音を流していなかった」という意味であることは明らかである。逆に、単語の意味に執着して「音の増強がなかった」という不自然な訳をすることは避けたい。

問7 「音を使ってどの生息地が棲家と呼ぶに最もふさわしい場所であるかを判断している」という日本語になるように、与えられた単語を並べ替える問題。日本語を見て、they determine から始まると決めつけてしまうと正解に至らない。

正解は、they (use sound to determine which habitat is the best place to call home) である。

問8 「海洋生態系の健全性は、サウンドスケープの多様性、つまりどれだけ複雑で生産的であるかによって評価することができる。」を英訳する問題。

「海洋生態系の健全性」→第1段落の第1文に A healthy marine ecosystem という表現があるので、healthy という単語を使って how healthy a marine ecosystem is とするか、名詞形 health を使って、the health of a marine ecosystem などとするとよい。

「サウンドスケープの多様性」→第2段落の下線部(2)の中に、soundscape diversity という表現があることに気づくと作文しやすい。

「～を評価する」→evaluate/ assess

問9 When the underwater sounds in a previously declining environment grow more lively, it is a clear indication that an ecosystem is healing. を和訳する問題。

it は When 節の内容を指す代名詞。

a clear indication that～は、clearly indicate that～を名詞化したもので、「～をはっきりと示すもの」という意味。

heal は「癒える」という意味だが、この文以降で繰り返し使われている restoration や recovery という表現に注目して、「回復する」と訳すと良い。うまい訳が浮かばない場合、置き換え表現を利用して訳すのも1つの手である。

問10 ①下線部の the process が指す内容を説明する問題。

直前の learn how to mix the right track to get recovery to happen in a particular place in the right way を指すが、ここが日本語にしにくい場合には、その前の learning which sounds many help boost restoration efforts in specific ecosystems も同じことを述べているので、この部分と合わせて解答を作るとよい。

②下線部の理由を説明する問題。

下線部の次の2つの文をまとめる。

問11 下線部の public systems によって今後期待できると示唆されていることを3つ選ぶ。

下線部を含む文の次から、

This could be helpful~ collaboration among scientists across specialties.

It could even help scientists detect ocean habitats that are just beginning to decline ~.

And if more civilians connect with ~, its struggling ecosystem may receive even more support.
という展開になっている。最終文が And から始まっているが、文頭の And は通常、並列関係にあった文の締めくくりを示す記号である。つまり、上の3つの文が並列の論理構造になっている。したがって、この3つの文のそれぞれで述べられた内容を選べばよい。この3つを端的に示したのが、

(は)「専門分野を超えた共同の修復作業が行える。」

(に)「衰退し始めた海洋生物の生息地を発見できる。」

(へ)「多くの市民から支援を受けることができる。」

である。

[II]

[解答]

- (1) **comprise** (2) **grow** (3) **brought about** (4) **attracted** (5) **has**
(6) **thrived** (7) **regarded** (8) **functions**
- 一度も結婚したことがない人か、離婚や死別で配偶者を失っている人。
- (ア) **composition** (イ) **shift** (ウ) **points** (エ) **prototypes** (オ) **descendants**
(カ) **legacy** (キ) **reversion**
- ① **one third of** (または **one-third of/ a third of/ one in three** (または **one out of three**)
② **one fifth of** (または **one-fifth of/ a fifth of/ one in five** (または **one out of five**)
- 2040年までには、男性の33%、女性の20%が生涯独身であるようになるという事態がすでに現実味を帯びているという証拠が、新たな結婚の数が毎年減っているということに見受けられる。
- (4th) **always** (8th) **which** (12th) **but**
- [和訳] (江戸の町では) 男性の人口は女性の2倍だった。
[理由] その当時は、富を求めて、日本中から、男性の農民、商人、そして、職人が江戸に集まって来ていたから。
- (3rd) **say** (7th) **more** (13th) **any**
- 皆が結婚し、残りの一生を配偶者と共に過ごすべきだという考えは、せいぜい100年ぐらいの歴史しかない、最近の新しい考えなのである。
- (1) **A** (2) **C** (3) **B** (4) **B** (5) **A** (6) **A** (7) **B**

[解説]

- (1) この場合の **make up** は「~を構成する、(割合)を占める」という意味である。これと同じ意味がある表現は **comprise** である。
(2) **swell** は「膨れる、増える」。これを同じ意味あるの表現は **grow** である。
(3) この場合の **prompt** は「~を促す、~を引き起こす」という意味である。これと同じ意味があるの表現は **bring up** である。問題文の **prompted** が過去形なので、解答は **brought up** である。
(4) この場合の **draw** は「~を引きつける」という意味である。これと同じ意味があるのは **attract** である。問題文の **drawn** が過去分詞なので、解答は **attracted** である。

(5) show は「～を示す」という意味だが、問題文の the Edo period shows surprising similarities with～という文は、「江戸時代は、～と驚くべき類似点がある」という意味なので、has に置き換えても意味は変わらない。

(6) flourish は「栄える、繁栄する」。これと同じ意味がある表現は thrive である。問題文の flourished が過去分詞なので、解答は thrived である。

(7) この場合の view は「～を眺める、～をみなす、～を評価する」という意味である。これと同じ意味がある表現は regard である。問題文の viewed が過去分詞なので、解答は regarded である。

(8) この場合の serve は「役目を果たす」という意味である。これと同じ意味がある表現は function である。問題文の serves が三単現変化をしているので、解答は functions である。

2. single people の文中の定義を説明する問題。下線部の both people who have never married and those separated from their spouse by divorce or death の部分をまとめればよい。

3. (ア) 後ろで、single-person households (「独身世帯」) や、nuclear families consisting of parents and their children (「親と子で構成されている核家族」と述べているので、「家族・世帯の構成」が話題となっていることは明らかである。したがって、As for household (ア) は、As for household composition (「家族の構成に関しては」) となる。

(イ) 空所に shift (「変化」) を入れると、This shift (「この変化」) が、「日本で一人暮らしをする独身者の割合が増える」という変化を指すことになり、文脈に合う。

(ウ) ～, there are some surprising (ウ) of similarity between the Edo period and contemporary society.

(「江戸時代と現代社会の間のいくつかの驚くべき(ウ) of similarity がある。)

この文の具体例が、これ以降で説明されている。第5段落の第2文に～the Edo period shows surprising similarities with the modern period (「江戸時代には、現代との驚くべき類似点がある」という表現があることに気づけば、surprising (ウ) of similarity と surprising similarities が同じ意味の表現であることがわかる。similarities は「類似点」なので、(ウ) に points を入れ、points of similarity (「類似点」) とするのがよい。

(エ) There were even early (エ) of “idols” and “maid cafés” that are part of the contemporary scene in Akihabara today.

(「今日、秋葉原で見られる光景の一部になっている『アイドル』や『メイドカフェ』の初期の(エ) さえあった。)

この文の前では、江戸時代の「すしやてんぷら」を売る屋台は、今日のファーストフードのようなものであり、今日の居酒屋の起源も江戸時代にあることが書かれている。このことを踏まえると、(エ)を含むこの文は、「今日の『アイドル』や『メイドカフェ』の起源さえも江戸時代にあった」という趣旨の文のはずである。(エ) に prototypes (there were の後なので複数形) を入れると、early prototypes of “idols” and “maid cafés” (「『アイドル』や『メイドカフェ』の原型となる初期の形のもの」となり、文章の流れに合う。

(オ) Many men in Edo remained unmarried throughout their lives and did not leave any (オ) behind.

(「江戸の多くの男性が、生涯結婚せずで、(オ)を残さなかった。)

「生涯結婚しなかった」のだから、「子孫を残さなかった」ということは明らかである。any + 名詞 は、通例、否定文では、not～any 可算名詞複数形、not～any 不可算名詞単数形 となるの

で、(オ)には、可算名詞 descendant の複数形 descendants を入れる。

(カ) Instead, their (カ) was the various forms of popular culture that are enjoyed around the world today.

(「そうではなく、their(カ)は、今日世界中で楽しまれている様々な形の大衆文化であった。」)

Instead (「そうではなく」)の「そう」は、この場合、前の文の leave any descendants behind を指していて、「子供を残すのではなく」という意味である。(カ)に legacy (「遺産、遺物、残したもの」)を入れると、「子供は残すのではなく、彼らが残したものは、～大衆文化だった。」となり、前の文との対比が完成する。

(キ) The situation we see today, marked by a high percentage of single people and widespread divorce, is in fact a (キ) to what was the norm throughout most of Japanese history.

(「独身者の高い割合と離婚の蔓延が特徴的である今日のこの状況は、実際には、日本の歴史のほとんどに渡ってごく普通のことであった状況へ(キ)なのである。」)

第3段落の第1文、第2文で、～many people warn that the rapid increase in the number of unmarried people is unprecedented in Japanese history. But in fact, this is not the first time the phenomenon has occurred. (「独身者の急激な増加は、日本の歴史上前例のないものだと多くの人が警告している。しかし、実際には、この現象が起きたのは初めてのことではない。」と述べている。この主張の説明が、最終文まで続いている。最終文の(キ)に reversion を入れ、a reversion to what was the norm throughout most of Japanese history (「日本の歴史のほとんどに渡ってごく普通のことであった状況に逆戻りしたもの」)とすると「初めてのことではない」の言い換えとなり意味が通り、結論としてふさわしい文になる。

4. 33%と20%という表現を、それぞれ2通りで言い換える問題である。

33%は「約3分の1」(one third/ one-third/ a third)、20%は「5分の1」(one fifth/ one-fifth/ a fifth)である。

また、33%は、「3人中1人」(one in three/ one out of three)、20%は「5人中1人」(one in five/ one out of five)という言い方もできる。

5. Proof that this is already happening can be found in the shrinking numbers of new marriages taking place each year.を this が指す内容を明示して和訳する問題。

that this is already happening は Proof の説明をする同格の that 節。

this は、直前の文(「2040年までには男性の33%、女性の20%が生涯独身でいるようになるということ」)を指す。

taking place each year は new marriages を修飾する現在分詞句。

6. 「日本は、常にほとんど誰もが結婚する社会だったわけではない。」という日本語になるように、与えられた単語を並べ替える問題。

all but + 形容詞/動詞 (=almost 形容詞/動詞) という表現を知らないと正解することは難しい。

Ex. The plant is all but dead. 「その植物は、枯れかかっている。」

正解は、Japan was not always a society in which marriage was all but universal. である。

7. Men outnumbered women two to one を和訳し、その理由を説明する問題。

outnumber は「～より数が多い」という意味。

two to one は「2:1」の意味。「2対1の比率で男性が女性の数より多かった」でもよいが、「男性の人口は女性の2倍だった」の方が自然な訳であろう。

理由は、直前の文をまとめる。

8. 与えられた語を並べ替えて入れ、意味が通じる文にする問題。

It is probably safe to say that～（「～と言ってもおそらく差し支えなかろう」という出だしがわかれば、後は簡単であろう。

正解は、It is probably (safe to **say** that divorce was **more** common in Japan than in **any** other country at) the time.である。

9. The idea that everyone should get married and stay with their spouse for the rest of their life is a recent innovation with a history of little more than 100 years.を和訳する問題。

that everyone should ～ for the rest of their life が、The idea を説明する同格の that 節。

get married と stay with their spouse for the rest of their life は and で並べられた表現である。

innovation は、「革新、刷新」と言う意味だが、The idea (考え) の補語の位置に置かれているので、「革新的考え、新しい考え」と訳すのがよい。

little more than～は「せいぜい～にすぎないもの」。

10. 本文の内容と一致するものはA、一致しないものはB、どちらとも判断できないものはCを選ぶ問題。

- (1) 選択肢の意味「日本は、ほかのどの国よりも、65歳以上の高齢者の比率が高い」

第1段落の第1文と第2文の内容と一致する。

- (2) 選択肢の意味「日本ほど結婚していない人々の割合が高い国はない。」

第1段落の第3文で、people living alone (一人住まいの人々) の数は、世界で一位になるかもしれないとは言っているが、unmarried people (「結婚していない人」) の数が現在世界一位かどうかを説明している文はないので、本文からはこの選択肢の内容は判断できない。

- (3) 選択肢の意味「日本で2018年に結婚した人の数は、1973年の半分にも満たない。」

第2段落の最後の2文で、「1973年に結婚したカップルは110万組、2018年には、59万組」と言っているので、2018年に結婚した人の数は、1973年の半分強である。したがって、選択肢は間違いである。

- (4) 選択肢の意味「歴史的に見れば、今日の日本での独身者の高い割合は、普通ではないことだ。」

最終文で「今日の状況は、日本の歴史のほとんどを通して、普通であった状況に逆戻りしたものだ。」とあるので、選択肢は間違いである。

- (5) 選択肢の意味「日本は江戸時代には離婚率は高かった。」

第5段落で、江戸時代は現在同様に離婚率が高かったことが述べられている。したがって、選択肢は正しい。

- (6) 選択肢の意味「ある国の人口において独身者の比率が高いことは、新たなタイプの大衆文化が発達することに有利であるとみなすことができる。」

第8段落の第2文で、「独身者の数が多いどんな社会も、家族のいない人の幸福を生む別の手段として役立つ消費者文化を生むことになる」と述べている。この内容と選択肢は一致する。なお、消費者文化 (consumer culture) は、popular culture (大衆文化) の言い換えである。

- (7) 選択肢の意味「結婚生活を続けることが幸せの前提条件であるという考えは、日本人が何世紀も当然と思っていた考えである。」

第9段落の下線部(う)では、結婚して、一生を配偶者と暮らすべきだという考えは、歴史がせいぜい100年ぐらいしかないと述べている。この内容と矛盾する。

(1) A (2) C (3) B (4) B (5) A (6) A (7) B

[Ⅲ]

[解答]

One reason why young Japanese are less interested in studying abroad is linguistic anxiety. To study in a foreign country, you have to have a basic command of the language spoken there. You need to have a level of command of the language where you can follow academic classes as well as communicate with local people there. But most young Japanese don't have this level of command of any foreign language, which makes them hesitate to study abroad. Another reason is job hunting. Japanese companies tend to prefer hiring fresh graduates and if you want to join the company of your choice, you often have to start job hunting in the third year of university. This prevents many of the Japanese university students from long-term study abroad.

[解説]

日本人の若者が海外留学に興味を示さない理由を説明する問題。よく耳にする話題なので、書きやすいテーマであったのではないか。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>